

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分だったら「こんな風に暮らしたい。」と自分に置き換え利用者の立場になって考えた理念を職員全員で考えて変更した。	職員一人ひとりが自分の老後をどう過ごしたいか、利用者に対してこんなケアをしたいという想いを書き出した結果、職員としての想いと利用者の想いが違うことに気づいた。「してあげたい」ではなく、利用者が「どうしたいか」を考え理念を作成した。すべてのケアが理念に基づき実践されている。理念は来訪者にもわかるように玄関に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の場で地域役員の方々の情報を元に地域行事に参加させていただいたり、日常的に散歩や買い物に出かけ地域の方々と挨拶をかわし、声をかけていただいたり、お花や野菜をいただいたりしている。また散髪は近所の理髪店に出張していただいている。	区長から地区の行事予定や情報を得ている。昨年は地区のどんど焼きに参加した。「一杯飲んで行かないか」と地域の方に声をかけられる場面もあった。グループホームで毎年利用者と楽しんできた「夏祭り」を今年は地域の方にも声をかけ参加を呼びかける予定である。利用者の負担にならないように少しずつ地域の方との交流を広げていきたいとの意向である。専門学校生の研修受け入れや継続的なボランティアの受け入れが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居申し込みに来た方の相談にのったり、できる範囲でアドバイスしたりし、認知症の正しい知識を伝えられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、現状や今後の取り組みなどを報告し、参加者の皆さんから質問や意見などをいただき今後に生かす努力をしている。	利用者家族、民生委員、区長、包括支援センター職員、市職員で構成され、2ヶ月に1回有料老人ホームと合同で開催している。テーマは決めずに現状報告を行い、お互いに意見交換をしている。開設より3年であるがいろいろなアドバイスや提案等を参考にし運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時や運営推進会議の機会に市担当者へ利用者の暮らしぶりを伝えたり、相談にのっていただいたりしている。	住所が利用前のままの利用者の介護保険更新手続き申請は利用者や家族の繋がりを考え家族に行っていただいている。認定調査員の来訪時には本人の状況を伝えている。その際に同席する家族もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者に対して抑制していないか振り返り、検討している。玄関は施錠しているが、利用者が外に行きたい時には、その都度一緒に行くようにしている。	玄関は施錠しているが契約時に家族に説明し理解していただいている。職員で話し合い一日の数時間、鍵をしない時間帯を設けたが直後に外出願望の強い利用者が出て中断している。外出傾向の利用者には職員が付き添ったり後からついて行く等、見守りを主に行動の制限をしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は利用者に対して言葉や態度での暴力をしていないか、互いにチェックし気がついたことがあればその場で注意するか、リーダーに報告し再発防止に努めると共に、自ら振り返り考えることができている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は概要は理解しているが、現在対象となる方はおらず、すぐに支援できる万全な体制とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、運営規定の全項目を家族とともに確認し、質問などに答え、理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、利用者の最近の様子をお伝えすると共に意見や要望はないかお聞きしている。意見や要望があった場合にはミーティングで話し合い運営に反映させるようにしている。	毎月スナップ写真と管理者による手紙が利用者家族へ送られている。お便りでは行事や利用者の近況報告とホームへの来訪などをお願いしている。行事に参加する家族、利用者のもとへ面会に来る家族が比較的決まってしまうため家族との繋がりを保てるような配慮をしながら、より多くの面会の機会を持てるように家族へ働きかけている。	家族がホームを信頼し面会が徐々に少なくなっているものと思われるが、敬老祭他、多くの機会に利用者と家族が一同に会することが出来るように働き掛けを続けていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で、職員誰もが意見や要望を言いやすい環境作りを心がけている。月1回のミーティング時にも意見を出してもらってる。また個別に問いかけたり、聞き出したりし1人で悩まないように配慮している。年に1回以上施設長、管理者との面談をしている。	月一回の定例会を設けている。全職員によるミーティングを行い、その後ユニット毎に分かれ利用者のケース検討会を行っている。新人の職員は3ヶ月ごとに、他の職員には年一回、施設長・管理者による個人面談が行われ、要望や悩みなどを話す機会を設けている。職員は職場の雰囲気が明るく毎日の仕事を楽しんでいる。子育てしながら働けるような職員同士が助け合える環境作りを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに合わせた勤務の仕方ができるように配慮し、安全で働きやすい労働環境創造をこころがけている。各自の介護への思いが実現しやすい環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身の介護への取り組みには、それぞれ課題を持って取り組んでおり、仲間との意見交換をしたり、リーダーに相談したりし実践しながら力をつけている。また社外研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協会の研修に参加すると共に、経験豊富な同業者に相談にのってもらったり、他事業所の職員の研修の場として受け入れられたりし、意見交換を行い、更なるサービス向上を目指している。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たり、ご本人の思いに向き合い、新しい環境や職員を受け入れていただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し私たちはどのように支援していくか具体的にお話しし、信頼して任せいただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時やケアマネージャーからいただいた情報を元に、ご本人・ご家族が必要としている支援を把握し、グループホームの特色を説明したり、他のサービスが必要であれば提案し、ご本人に合った生活が送れるように一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には教えていただくことが多い。互いに足りないところを補えるような関係作りができています。職員、利用者の枠ではなく人と人の繋がりを大切に考え、お互いに相談しあえるよおうな信頼関係も築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回日々の様子などを写真を添えて郵送している。面会、外出、外泊の制限はなく、急な場合も対応している。ご家族にしかできない支援もあり、いつまでも絆を持ち続けていただくためにも、ご本人を支えていくための協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば支援できる体制は整っている。知人が訪ねて来た時には、自室でゆっくりと過ごしていただいている。馴染みの人に会いに行ったり、場所に行ったりする時にはご家族の協力も得られている。	利用者が家族、知人に直接電話をかけたり、職員に用件の代弁をお願いしている。家族と馴染みの温泉に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が見守ったり、会話に入ったりと利用者間でトラブルが起こらないように楽しく過ごしていただけるように支援している。また利用者同士が支え合えるような関係もできている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、ご本人の様子をお聞きしたり、ご家族の相談にのったりしている。現在も、ご家族が野菜を届けてくださったり、お茶を飲み立ち寄ってくださりと関係は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の望んでいることを把握するように努めている。また、言葉や行動から真意は何なのか話し合い検討し、ご本人の望む暮らしを支えていけるように努力している。	自由に意思を表現できる方も言葉での表現が難しい方も職員は言葉や表情、仕草で把握している。利用者の思いを汲み取って、いそがず、せかせず、一人ひとりに時間をかけた支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、自宅で面談し、生活歴や生活環境を把握するように努めている。ご家族にも聞き取りをしたり、アセスメントにセンター方式を用いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ1日の過ごし方が決まってきた。利用者1人1人の能力に合わせ有する能力を発揮する場面もあり、ゆっくり過ごす時間もある。心身状態に応じ臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人・家族と話し合う機会を大切に希望やアイデアを反映した介護計画を作成している。	契約時に利用者、家族の要望を聞き作成している。センター方式を取り入れ、定例会で職員の意見交換をし、計画作成担当者がケアプランを作っている。より一層充実したケアを提供するために新たにホーム独自の支援計画書の作成を予定している。計画の定期的な見直しもされており、状況に変化のある時には随時見直しをするようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を活用し、日々の生活や出来事が分かりやすくなっている。また連絡ノートに気づきや検討したいことを記入し情報の共有をしている。月1回ケース検討会議があり話し合いをし、実践し、再検討することができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、既存のサービスにとらわれず柔軟な対応をしている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行き、食材やおやつを選んでいただいたりしている。散髪は近所の理髪店が出張できてくださっている。地区の消防団の方々には施設内を見学していただき施設内の把握をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医がある場合は継続して利用していただいている。受診の際は生活の状態や体調などを家族に伝え、医師に報告している。必要があれば直接医師に相談するようにしている。	家族の希望で利用開始後協力医へ変更する利用者もいる。協力医による月一回の往診と年二回の血液検査がある。通院は家族の付き添いをお願いしているが、都合がつかない時には職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護師に伝えている。介護員では判断できないことは、看護師に相談し看護師が必要と判断した時には医師に相談できる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医師や看護師からの説明を受け、退院後の生活の検討や相談を行い、病院関係者との連携体制がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応にかかる指針を文章で説明し理解を得ている。心身の状況に変化があれば、ご家族に報告し更に具体的な話し合いを行う。今年2名の利用者の方の看取りをさせていただき、ご家族の意向に添い、看護師・医師と連携を図り、当施設で最期を迎えさせていただいたことに感謝させていただいた。ご家族からも感謝のお言葉をいただき良い経験をさせていただいた。	「看取りまでをグループホームの介護として位置付け」と文書化し、契約時に説明をしている。また指針書も作成されており同時に説明している。家族、医師、看護師、職員の連携を持ちながら看取り介護が行われている。夜勤の職員に「何かあったら連絡して」とお互いに声をかけ合うことで見守る職員の安心にもつながっている。職員間の信頼関係も固いものがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて看護師による応急手当や初期対応の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の消防団の方々には施設内を見学していただき、施設内の把握をしていただいていると共に、消防署や消防団の協力を得て避難訓練・通報訓練・避難経路の確認を定期的に行っている。また隣の有料老人ホームの職員の協力体制もできている。	春の訓練は初めて「夜間想定」で行った。消防署立会いのもと有料老人ホームと合同で行っている。職員が訓練計画を作成し、実施後の反省と消防署よりの具体的な指導を受け今後の有事の際に活かしていきたいと前向きに取り組んでいる。非常警報装置、スプリンクラー、煙排出機能等防災設備が完備されている。ホーム敷地内が災害時、地域の避難受け入れ先ともなっている。	

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも、お手伝いさせていただくという気持ちで接し、さりげないケアを心がけている。誇りを損なわないような言葉かけや対応を心がけ1人1人を大切に考えている。	利用者の呼びかけは「苗字」にさん付けで呼び、利用者の希望で「名前」にさん付けの方もいる。声かけや言葉づかいなどが職員により異なることのないように常に気をつけている。利用者と職員は対等な立場であることを繰り返し話し注意を促している。利用者の小さな行動にも「ありがとうございます」との声掛けがされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、選択肢を提案したり、問いかけを行い自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし、それに合わせた対応をしている。その日、その時のご本人の気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時・起床時・外出時などご本人が衣類を選んだり、職員と一緒に選んだりしている。出張理髪店が定期的に来るので、ご本人や家族の希望があれば散髪していただける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同じ敷地内の施設の厨房から主食・汁物以外が届く。盛り付けは利用者で行い、汁物の具材選びや調理を一緒に行ったりする。時には利用者全員で作る物(季節のおやつ・お好み焼き・餃子・おやき等)も取り入れている。また買い物と一緒に行っていただいた際には、食べたいおやつを選んでいただいたりしている。	昼食と夕食の主食はホームで用意しているが朝食は全てホームで調理している。前日に利用者と職員が食材の買い出しに出かけ、献立を作っている。食事介助を必要とされる方もほほ他の方と同じ形態で頂いている。「腹は一杯じゃないけどちょうどいいかな」と利用者と職員が話していた。外食に出掛けたり出前を取ったりして変化をつけている。テーブルには手作りの折り紙や切り絵で飾り付けがされ利用者の話題の一つに上がっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し記録している。毎食時と10時、3時にお茶を提供し補水していただいている。コップでは飲み辛い利用者には、ストローを使用したり、お椀の様な器で提供してから摂取量が増えた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしていただくように声かけしている。ほとんどの利用者は自分で行える。介助が必要な利用者はお手伝いしている。就寝前には義歯を外し洗浄液につけていただく。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、排泄パターンを把握している。自らトイレにあまり行かない利用者に関しては声かけを行い、トイレにお誘いする。トイレ介助やパット交換が必要な利用者には自尊心に配慮し自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を参考にし声掛けをしている。無理強いをしないで利用者の行動に沿うようにしている。夜間については利用者自ら起きてトイレを使用したり、職員が定時に声をかける方等、様々である。現在のところポータブルトイレを使用する方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は1人1人の排便サイクルを把握している。便秘は体調や気分を左右することから、水分補給や適度な運動を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴をすすめている。希望があれば希望時に入浴していただいている。個々のペースで入浴していただけるように支援している。	入浴日等の基本は決められているが利用者の希望に沿い入浴している。午前中の希望がないので午後に入浴時間を設定している。食堂に入浴日が書き出され、毎日入浴する方もいる。男性職員もいるが、利用者の中で職員の選り好みと言う方は殆どいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターンや、その日の状況に応じて、安眠・休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の薬の説明書を利用者ごとにファイルし職員が把握できるようになっている。服薬時にはご本人に手渡し服薬確認をしている。状態の変化がみられた場合は看護師に相談し、医師の指示を得るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力を発揮していただけるように支援している。ご本人が自分の仕事として行っていただけのこともある。感謝の言葉を伝え、張り合いを持って行っていただけのこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩にお誘いしている。散歩や外出を希望されない利用者もいるので無理強いはないが、外に出でただけるようなタイミングに声かけをしたりしている。外で歩行が困難な利用者は車椅子を使用し季節を感じていただけるように支援している。散歩の回数は制限せず、行きたい時に一緒に行っている。行きたい場所がある時はご家族にも協力していただき実現している。	利用者によって散歩コースが決まっている。2コースあり利用者一人ひとりに合わせて職員はコースを変えている。日常生活で車イスの方は少ないが遠出する時には車イス対応の方が6~7名いる。マイクロバスやタクシー利用でお花見やバラの見学、善光寺参り等、年間外出行事を組み、帰路に夕食やお茶を楽しんでいる。	

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所してから個々のお金を使用する場面は無いが、ご本人の希望により所持している利用者は数人いる。現在までに使用したいという希望は無いが、希望時には使えるように支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば自ら電話したり、家族とのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に衛生面に配慮し、快適な居住環境整備を心がけている。季節の花を飾ったり、季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒に行っている。	玄関を挟み左右に同じ造りのユニットがある。ユニット入口にも引き戸が付けられていて各ユニットが独立している。季節を目から感じさせる飾りつけがされ、利用者の作品や外出時の全体写真・スナップ写真が飾られている。昼食の後利用者職員と一緒にモップ掛けや掃除を行っていた。廊下にはソファがあり、昼食後、思い思いの場所でくつろぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを2つ置き、利用者同士でおしゃべりしたり、一休みしたり、思い思いに過ごせる環境作りができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋は本人の使い慣れた物や馴染みのある物を置いたりし、使いやすいように整理している。テレビの好きな利用者は好きな番組を好きな時間に見て過ごしている。	居室にはベッドが置かれ、広いクローゼットが造りつけられている。ベッドは利用者が好きなように配置し利用されている。衣類を多く持ち込んでいる方や居室を片付け広々とした空間を持たれている利用者など一人ひとり、思い思いの居室づくりをしている。各居室にはナースコールが付いており、夜間の排泄の呼び出し用に使われている。ある居室の入口にピンのような物が置かれておりリハビリで廊下を何回往復したかの目安として置いているという。生活の場として一人ひとりが自由に暮していることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や、自分の部屋が分かりやすいように張り紙をしている。安全に生活できるように物の配置の環境整備に配慮している。		